ヤングフォレスター７ 始動 ～若い力で考える地域林業活性化～

米代東部森林管理署　総務グループ　○大水　香澄
業務グループ　○大野由芙子
秋田県大館市　　産業部農林課　○千葉　泰生
ヤングフォレスター７　メンバー

１．はじめに

１．１　地域林業の特色

米代東部森林管理署は、米代川流域のうち秋田県北部の、鹿角市、小坂町、大館市、北秋田市（旧鷹巣町）にある国有林を管轄している。

本地域は、古くから秋田杉の主要な産地として林業が盛んに行われてきた。特に、大館市、北秋田市、上小阿仁村（米代東部森林管理署上小阿仁支署管轄区域）からなる「大館北秋田地域」は、平成 29 年４月に林野庁より「林業成長産業化地域」の選定を受け、同年 10 月には協議会を立ち上げるなど、地域林業の成長産業化を目指し活動しているところである。

１．２　地域林業の課題

本地域の林業の課題としては、施業集約化や林業事業体の減少、林業従事者の確保等があげられる。その解決のため本地域では、米代川流域フォレスターチームや米代川流域林業活性化センターなどによる民国が連携した取組が進められている。

上述したような民国連携の取組に参加しているのは、主に各組織において指導的立場にある職員である。一方実際のところ、管轄区域内の３市１町、鹿角地域振興局、北秋田地域振興局の林務担当部署には若手職員が多く在籍しているが、若手職員が一体となって自ら地域林業の活性化を考える動きは活発ではなかった。

１．３　ヤングフォレスター７結成に向けて

１．２で述べた本地域の状況について、米代東部森林管理署では「組織間の交流を深めることができれば地域林業のさらなる活性化に繋げられるのではないか」、「若手職員が地域の林業について川上～川下まで全般的に学び、考える場を持ちたい」という考えを持っていた。また、民有林行政側でも「森林管理署は“地元にある”というだけで実際にどのような仕事をしているのか分からない」、「若手職員は知識や経験が足りないため自分の考えを発言しにくい、自由に発言・発信する機会がほしい」といった考えを持っており、国有林、民有林ともに若手職員による活発な行動を望んでいた。

そこで、平成 29 年７月、米代東部森林管理署では、若い人たちが交流や勉強を通じて地域林業の活性化を考える場として「ヤングフォレスター７」という活動を考案した。本活動を３市１町と２地域振興局に提案したところ、「ありそうでなかった新鮮な取組だ」、「若い人たちの交流と勉強の場として非常に魅力的である」と賛同を得られ、

同年８月、「ヤングフォレスター７」が結成された。

２．活動の概要と平成 29 年度の活動内容

２．１　活動の概要

本活動は、米代東部森林管理署、鹿角地域振興局、北秋田地域振興局、鹿角市、小坂町、大館市、北秋田市の７つの組織の若手林務担当者を中心に構成されている。平成 29 年度は米代東部森林管理署が事務局となり、総勢 19 名で活動した（図３）。

本活動の目的は、林業に関する見識を深めること、組織間の連携を強めることの２つであり、自由な意見を尊重することを心得としている。

活動内容は、主に勉強会や現地見学であり、活動を通して「地域林業の活性化」を考えることとしている。

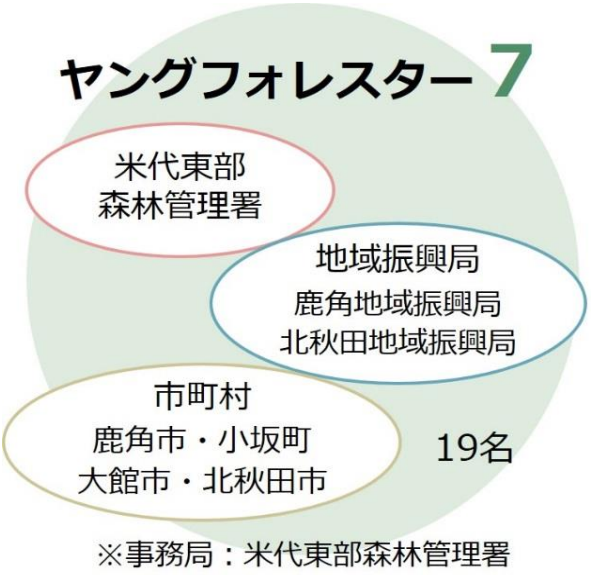

図１　ヤングフォレスター７概要

２．２　平成 29 年度の活動

平成 29 年度は、表１に示すとおり４回にわたり活動を行った。

表１　平成 29 年度活動内容

	日　時	内　容
第１回	８月 24 日	自己紹介、米代東部森林管理署の紹介、 森林整備計画についての勉強
第２回	10 月６日	一貫作業システム現地検討会へ参加、 苗畑の見学
第３回	12 月７日	現地視察のふりかえり、低コスト施業についての勉強、 大館市の紹介、林業関連イベントへの参加報告
第４回	１月 12 日	地域林業の課題解決に向けたワークショップ、 今年度の活動のまとめ、来年度の活動計画について

２．３　第１回活動内容

第１回開催前、メンバーにアンケートを実施した。勉強したいテーマや要望などを調査し、以降の活動の参考にすることとした。「各組織の業務内容を知りたい」、「森林

計画制度について勉強し、平成30年度の市町村森林整備計画樹立の参考としたい」といった意見が寄せられたことから、第１回では、米代東部森林管理署の紹介と森林整備計画についての勉強をすることとなった（図２）。

図２　森林整備計画について学習する様子

開催後には、「森林管理署の業務分担や役職等が理解できた」、「森林整備計画について見通しがたった」、「普段の会話ではできないような細かい話をしたり、教えてもらったりすることができた」といった意見が出された。

また、今後勉強する内容はメンバーで意見を出し合って決めることし、次回以降は「低コスト施業」について勉強することとした。

２．４　第２回活動内容

第２回は、「低コスト施業」をテーマに現場見学を実施した。

初めに、大館市内の国有林にて開催された「一貫作業システム現地検討会」に参加した。一貫作業システムについての説明や、実施した事業体の意見を聞き、コンテナ苗の植付体験を行う（図３）など、一貫作業システムとコンテナ苗の植付に関して見識を深めた。

次に、北秋田市にある種苗会社を見学し、苗木生産についての説明や意見等伺った（図４）。コンテナ苗や広葉樹苗の生産・出荷方法、課題等について見識を深めた。

図３　コンテナ苗の植付体験

図４　コンテナ苗生産現場の見学

２．５　第３回活動内容

第３回は、第２回の現場見学についてふりかえり、「低コスト施業」について勉強した。東北森林管理局や東北地方における低コスト施業の事例について勉強したのち、森林所有者の立場にたって森林施業を考えるアクティビティを行い、それぞれの意見を共有した。一つのテーブルをメンバーで囲んで近い距離で意見交換をするなど、発言しやすくなるよう工夫をした（図５）。

その他、大館市についての紹介（図６）や林業関連イベント（林業×IT ハッカソン）の参加報告等を行った。

開催後には、「第２回、第３回を通して低コスト施業について理解が深まった」、「市町村の業務内容について理解できた」、「林業関連イベントを本地域でも開催できないだろうか」という意見が寄せられた。

図５　低コスト施業について意見交換

図６　大館市の紹介

２．６　第４回活動内容

第４回は、地域林業における課題を出し合い、その解決に向けたアイディア作りのワークショップを行った。事前に出された課題から３つのテーマを抽出し、各テーマについて意見交換した。ワークショップ形式で少人数の話し合いをしたことにより、全員が発言し、活発な意見交換をすることができた。その結果、「動画サイトを活用して持山を販売する」といった若い人ならではのアイディア（図８）や、「森林・林業を子供の頃から体験させ身近に感じてもらう」といったアイディアが多く出された。

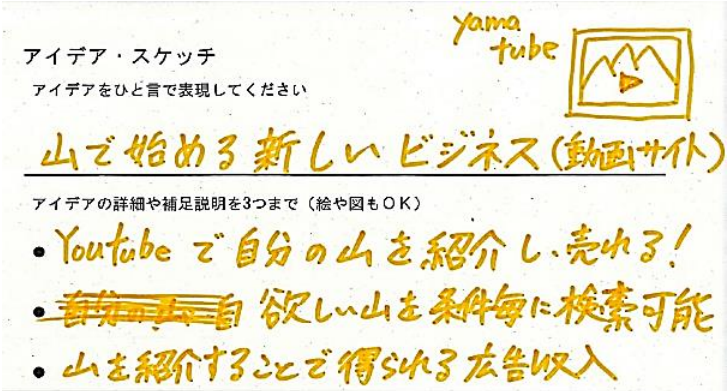

図８　アイディアの一例

その他、平成 29 年度の活動のまとめや平成 30 年度の計画を作成した。

３．活動を通して

第３回開催後にアンケートを実施し、本活動に対する意見や感想を調査した。

活動に参加して良かったこととして、「他組織の業務内容が分かった」、「他組織と意見交換や相談がしやすくなった」、「担当業務外の分野についても学ぶことができた」、「民有林の事業や意識を感じられるとともに国有林野事業についても理解が深まった」など、実務面の変化が挙げられた。他にも、「民有林の実情を身近に感じられるようになった」、「民国連携の必要性を改めて感じた」、「地域の林業についてさらに学びたいと考えるようになった」、「林業関連イベントに参加、主催してみたいと感じるようになった」など、意識面の変化も挙げられた。

また、各組織において本活動は「国・県・市町が合同で活動する良い機会であり継続を望む」、「勉強と交流の場として職員には積極的に参加してほしい」など、好意的に受け止められており、活動に対する評価が高いことが分かった。

活動における課題として、「行政の意見は疑問や憶測でしかない場合があるため、行政だけで林業の課題解決を図ることは困難だ」という意見が寄せられた。

４．これまでの成果と今後の展望

４．１　これまでの成果

本活動の目的に沿って考えると、その一つであった「林業に関する見識を深める」については、アンケート調査等より「林業に関する理解が深まった」、「担当業務外の分野にも関心をもつようになった」といった意見が寄せられたことや、「地域林業の活性化のためにヤングフォレスター７として何かやりたい」と感じられるようになったことから、目的の達成に繋がるような活動ができていることが分かった。また、本活動が地域林業の課題に取り組む能力や意識の向上に繋がっていることが確認できた。

もう一つの目的であった「組織間の連携を強める」については、「通常業務において連絡相談しやすくなった」、「民国が一体となって地域林業を盛り上げようという意識の向上に繋がった」といった意見が寄せられたことから、本活動が組織間の連携を強め、民国連携を深める一助になっていることがうかがえた。

また、本地域の林業関係者からは、「若い人を本地域に呼び込むため、林業若者会のような有志会を組織したらどうか」というような声がある。若い人たちの活躍に期待する意見であることから、本活動がその若者会のモデルになり得ると考えられる。

４．２　今後取り組みたいこと

本活動で今後取り組みたいこととしては、「自己啓発」や「メンバーそれぞれが興味関心のある林業関係の話題の紹介」などが挙げられ、自己の能力の向上に繋がるような取組が期待されている。また、「森林組合や民間事業体の若い世代の意見を聞きたい」、「山林所有者の話を聞きたい」など、行政だけでなく現場の生の意見を聞いて地域林業を考えたいという意見もあった。

また、国有林側からは、「民有林についてまだまだ分からない部分が多いため、さらに理解を深めたい」といった意見が寄せられた。今後も活動を継続することでお互いの理解を深めていきたいと考えている。

民有林側からは、「東北森林管理局における研修や、各種講演会、発表会等で紹介された最新技術などを民有林に導入するための方法を検討し、実践したい」というような民有林における森林施業の進歩を考えることに期待する意見があった。

また、地域林業を盛り上げるため、「児童・生徒向けの出前授業や森林・林業普及活動の実施」により子供たちに森林・林業へ興味関心を持たせ、最終的には森林・林業関係の従事者の確保にも繋げたいとの意見があった。

４．３　平成 30 年度の活動内容

４．２の中から、「現場の生の声を聞くこと」、「児童・生徒向けの出前授業や森林・林業普及活動」を平成 30 年度の大きな目標として選定することとした。

まず、「現場の生の声を聞くこと」については、民有林の実情について把握するための森林組合との連携や、山林所有者から意見聴取し得られた課題等の解決に向けて本活動で取り組むことを検討している。

「児童・生徒向けの出前授業や森林・林業普及活動」については、平成 30 年度に出前授業等の対象や内容等について検討し、平成 31 年度以降実施していきたいと考えている。本活動のメンバーは児童・生徒と世代が比較的近いため、児童・生徒がより親近感を持ちながら森林・林業について学習できるのではないかと考えている。ヤングフォレスター７だからこそできる普及活動を展開していきたい。

今後も若い人ならではの発想を大切に、地域林業を盛り上げる活動へと発展するよう努めていく。